

解散しないオウムに対して、我々は怒りの声を上げよう!

「“脱麻原”と言う上祐の設立する新団体とは」

第14回 抗議デモ・学習会

5月12日(土)

- 抗議デモ 1:40集合 2:00出発 烏山区民センター広場
- 学習会 2:45開会 烏山区民センターホール

活動報告：滋賀県湖南市平松地区オウム対策委員会 実行委員長 釣田正紘氏
8年を越えるオウム真理教との闘いの報告



烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

講演

“脱麻原”と言う上祐の設立する新団体とは

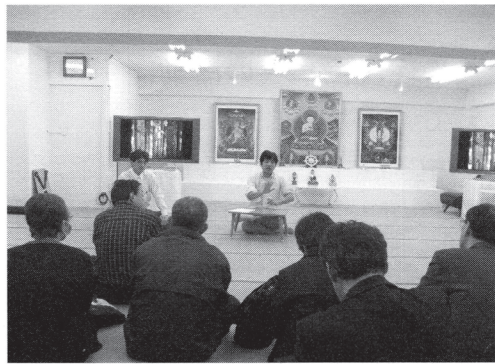
上祐派による分離独立など混乱を極めるオウム真理教。麻原からの脱却を表明する上祐派も、教義や修業方法などで麻原を排除できる可能性は低く、上祐派の再分裂の可能性も出ている。教団が混迷すればするほど、松本家の存在感が増加し、そこにカネが流れ込む。教団と松本家をめぐるカネの流れを中心に、教団の今後をうらなう。

講師 加藤達也氏(産経新聞社会部記者)

〔略歴〕平成3年、産経新聞社入社。浦和(現さいたま)支局で警察を担当。4年に東京本社「夕刊フジ」へ。主に殺人や誘拐などの凶悪犯罪を取材。地下鉄サリン事件をきっかけに、オウム真理教に絡む事件・問題に関心を持つ。11年に産経社会部へ異動し、警視庁クラブでオウムや北朝鮮による日本人拉致など、公安事件をテーマに取材活動。最近、教団やその周辺者による松本家への生活支援と「麻原回帰」の関係を取材。東京出身、40歳。

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

共催：世田谷区



上祐を代表とする新団体準備グループの施設を視察して

約60名の出家信者が旧オウム真理教から脱退し、上祐を代表とする新団体準備グループが3月7日に発足したのを機に、住民協議会は施設公開を要望してきた。4月2日、総勢30名強の協議会員が、公開された南烏山の施設を視察した。

本部のあるGSハイムの道場・瞑想室・厨房など1階共用部を解説付きで見て回った。道場には祭壇が置かれ、祭壇と壁一面には、シヴァ神に代わり新しい信仰の対象となった「釈迦三尊像」のチベット仏教風極彩色の仏画が貼られ、瞑想用ビデオを流す大型テレビや烏山本部の修行状況を全国支部に流す音響・映像設備が整えられていた。瞑想室には、「基本信仰：五体投地13回・地水火の供養・ザンゲ・教学OR行法修行15分」と書いたプログラムが張り出されていた。

上祐代表との質疑応答も行われた。麻原教祖への絶対的帰依がオウム一連の事件の背景になったことを反省し、新団体では個人崇拜を全面排除する事を強調した。又、マンションの賃貸契約は月約200万円で継続予定であること、パソコンショップなどの事業が成り立たず、団体外での就労やセミナーでの布施を財源とする厳しい財政状態で、その中から賠償を予定していること等が伝えられた。

協議会からは「地下鉄サリン事件などの極悪テロ事件当事者の言葉は、どう反省しよう、どう飾ろうと信じられない」との意見が口々に出て、最後に、新団体を含めた旧オウム真理教の全面解散・解体を、住民協議会は、従来通り求め続けることを伝えた。

リサイクルバザーへの応援ありがとうございました！

住民協議会主催のリサイクルバザーが4月14日(土)晴天のうちに行われました。

烏山区民センター前広場に設置された会場には、定刻前から続々と人々が詰め掛け、せともの、雑貨、衣類のコーナーは大勢のお客さまで埋め尽されました。皆様からお寄せいただいた、好意の品々はすべて売りつくされました。本当にありがとうございました。

- ・子供たちが集まるだろうからと、割箸鉄砲を作り、射的コーナーでの売上げを全部寄付してくださった男性。
- ・品物を届けながら「がんばって下さい！」と声をかけていかれた方
- ・身体が不自由で烏山まで行けないのでと、電話で励ましてくださった方
- ・遠いのでと宅配で送っていただいた品物の中に、封筒に入れた募金がありました。
- ・ご主人の運転で大きな荷物を持ち込まれた方
- ・この次も品物を持って行きますから、又バザーやって下さい。



などなど、沢山の好意と応援があって、私たち住民協議会の活動が続けられるのだと、感じた1日でした。

その事をしっかり受けとめて、オウム教団解散・解体の運動を続けて行きたいと思います。

最後に予定された開始時間より早く、開店してしまい、品物がなくなるという事態になり、おいでいただいたお客さまに大変ご迷惑をかけてしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。尚、バザーの結果は、以下のとおりです。

・事前に4日間物品を寄付していただいた方	257名
・バザー収益金	276,208円
・物品受付会場・当日会場募金箱	26,937円
合計収益金	303,145円

投稿 オウム施設、視察を考える

2000年に教団が烏山地域に集団居住して、施設視察以来、7年ぶりに教団施設を視察する事になった。と言っても、正式には上祐が新たに設立する「新団体」の方である。

100畳以上はあると思われる「道場」は、ただ広いだけで、何とも閑散としている。正面には「釈迦三尊像」が飾られ、瞑想の為の大型テレビが置かれ、仏教に関係していそうな小物が並べられ、まるで「骨董屋」にいるような幻想を抱かせると共に、形ばかりが先行していて、子どもが自分の好きな物を部屋中に飾っているような錯覚に陥った。同時に、相手の方から「さあ、来て下さい」と言う家は、適当なかたずけと、飾りをするのと同じように、自らの欠点はさらけ出す事は容易にしないものだという事も実感した。

住民協議会は2001年1月に設立されたが、施設を視察する事にさしたる疑問も感じず、個人的には施設に立ち入り、信者と話す人もでてきた。教団からすれば格好の宣伝材料で、度々「地域住民とは友好的な関係」であるかのように報じられた。

2002年に住民協議会の対応が求められ、団体、個人問わず施設視察や立ち入りを行わない事に決定した経緯がある。

今回の視察が今後の住民協議会の活動に、どのような意味を持つのか考えていきたい。

それにしても、上祐の話は饒舌で話しは上手だが、どこか信用できない、絵空事に感じたのは私だけだったのか。

住民協議会活動報告

- 4月12日(木) リサイクルバザー 寄付物品受付
- 4月13日(金) リサイクルバザー 寄付物品値付け
- 4月14日(土) 住民協議会リサイクルバザー

- 4月20日(金) 住民協議会
- 4月20日(金) 「協議会ニュース65号」初校正
- 4月25日(水) 「協議会ニュース65号」再校正
- 5月8日(火) 「協議会ニュース65号」全区版発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。